

日伯セラード農業開発協力の概要

年	1972	77	1980	1985	1987	1990	92	94	96	97	98	99	2000	01	
JICA による 研究協力															
プロデセル事業															
セラード農業開発研究協力計画: フェーズ I (1977~1985)				セラード農業開発研究協力計画: フェーズ II (1987~1992)				セラード農業環境保全研究計画 (1994~1999)							
目的:セラードの農業開発計画(ミナス・ジェライス州)の指針となる農業生産の基礎技術の開発。				目的:フェーズ I の開発技術をバイア州、マツ・グロソ州入植地に適応させるための開発、普及、発展。				目的:環境インパクトを減らし、資源保全型の総合的農牧開発のためのセラード生態系利用技術の確立。							
管理機関: エンプラパ 実施機関: CPAC研究所 協力機関: ミナス・ジェライス州農業研究公社 ほか				管理機関: エンプラパ 実施機関: CPAC研究所 協力機関: バイア州農牧研究公社ほか				管理機関: エンプラパ 実施機関: CPAC研究所 協力機関: マラニョン州農牧研究所ほか							
日本側の協力内容: 専門家の派遣(長期19名、短期31名、計50名) 研修員受入れ: 33名 機材供与				日本側の協力内容: 専門家の派遣(長期11名、短期14名、計25名) 研修員受入れ: 20名 機材供与				日本側の協力内容: 専門家の派遣(長期10名、短期20名、計30名) 研修員受入れ: 23名 機材供与							

(注)セラード環境モニタリング調査(1992~2000) 農業開発と環境保全の両立を目指し、プロデセル事業の実施が自然環境に与える影響の調査(実施協力機関: CAMPO社、エンプラパ、CPAC研究所)。

出典: 日伯セラード農業開発協力事業合同評価調査総合報告書をもとに加筆作成